

| 学習指導要領 | | 都立多摩科学技術高校 学力スタンダード |
|------------------------------|--|--|
| <p>(1) 私たちの生きる社会</p> | <p>現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期や基本的人権、日本国憲法を学ぶ中で、「幸福、正義、公正」などの考え方が、現代社会の諸課題を考察するための基盤であることを理解させる。 ・現在社会で起こっている出来事を取り上げ、法や権利などがいつも身近にあるかを理解させる。 ・現代社会の学習全体を通して、いかに生きるべきかを主体的に考える事大切さを自覚させ、その力をつけさせる。 |
| <p>(2) 現代社会と人間としての在り方生き方</p> | <p>現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。</p> <p>ア 青年期と自己の形成 生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各分野を現代に起こっている事象に絡ませて理解させ、自分との現在や将来の関わりを考えさせる。 ・青年期の課題や意義について広く理解するとともに、青年期の心理を自己に当てはめて考察させ、欲求不満や葛藤などにより心の安定が脅かされた場合、自我を無意識に守る働きがあるということを理解する。 ・青年期は自己の内面と現実社会の葛藤の中からアイデンティティを確立する時期であることを理解する。また、エリクソンによって定義されたアイデンティティの概念や、マズローの欲求階層説について、将来の自己実現と職業生活との関連を踏まえて考察させる。 ・誰もが多様な生き方・働き方を選択できる社会の形成について、自己の社会的役割を踏まえて考察できる。その際、男女が共同して社会に参画し、共に責任を負うことの重要性を理解させる。 ・我が国の伝統や文化について知ることが、自己を形成する上でも重要であることを理解させ、伝統や文化と自己の行動様式との関係について考察させる。 |

| 学習指導要領 | 都立多摩科学技術高校 学カスタンダード |
|--|---|
| <p>イ 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。</p> <p>ウ 個人の尊重と法の支配</p> <p>個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ホップズ、ロック、ルソーのそれぞれの考え方の違いを踏まえて社会契約説を理解させ、民主政治における国家と個人について捉えさせる。 ・日本国憲法の各条文に則して、自由権、社会権、平等権などについて理解させ、その具体的な内容や例を通して、権利の大切な点を学ばせる。 ・国政選挙における衆参両院の相違点や、国政選挙と地方選挙との違いについて学ばせる。 ・18歳選挙権について理解させ、自分が選挙に参加する意義を考えさせる。 ・我が国の平和主義について、日本国憲法第9条の「戦争の放棄」、「戦力の不保持」、「交戦権の否認」を理解させ、平和を守る大切さを考えさせるとともに、現在起こっている国際危機にどう日本が対応すべきか考えさせる。 ・明治憲法と日本国憲法での天皇の地位と役割の違いを理解させ、国事行為の具体的内容と天皇の現在の公務について学ばせる。 ・日本の政治制度について、議会制民主主義の考え方や三権それぞれの働きについて学ばせ、三権が相互に抑制・均衡の関係にあることを理解させる。 ・民主社会において、国民の世論が政治に大きな影響力を有していることを捉えさせる。またマス・メディアが世論形成に果たす役割について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・憲法第13条を通して、個人の尊重と幸福追求権について理解させ、人格権などの新たな人権の保障についても理解させる。 ・法とは人々を公正に処遇し、相互の信頼の確保を目指すものであることを理解させ、人の支配と法の支配の違いについて考察させる。 ・司法制度や違憲立法審査制が、法の支配の実現のために重要な役割を果たしていることを理解させる。また、司法権の独立が重要であること、最高裁判所が「憲法の番人」と位置付けられることについて考察させる。 ・裁判員裁判の基本的な仕組みについて理解させる。 ・生命尊重の精神が、現代社会において最も大切な価値であり、現代社会の様々な仕組みの中に反映され |

| 学習指導要領 | 都立多摩科学技術高校 学カスタンダード |
|--|--|
| <p>エ 現代の経済社会と経済活動の在り方</p> <p>現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。</p> | <p>ていることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの自由や権利を主張するということは、同時に他者に対しても同様の自由や権利を認めることが前提となること、責任・義務を果たすことが必要になること、それによって自己の個性を生かすことができることを具体的な事例を通して理解させる。 ・具体的な事例を通して、人間の尊厳についての理解を深め、人間は互いにかげがえのない存在（人格）として平等であることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・現代の経済社会において、情報関連産業の発展が与える影響について理解させるとともに、経済のソフト化、サービス化について考える。 ・市場の仕組みについて理解させる。また、完全競争の下では、資源が効率的に配分されるが、現実の市場においては様々な要因により価格メカニズムが十分に機能しない場合があることを事例を挙げて、その状況を捉えさせる。 ・財政の役割である、資源配分、景気調整、所得再分配の三つの機能について学ばせる。今の我が国の財政政策が、国債に依存して実施されていることを理解させ、その改善策を考えさせる。 ・金融の仕組みについて、間接金融と直接金融の違いを学ばせる。また、公開市場操作による金融政策の内容を理解させ、市場に流れる通貨供給量との関係を捉えさせる。 ・戦後の我が国の景気循環とその背景について理解し、高度経済成長を生み出した諸要因を労働力や技術進歩などの視点から考えさせる。 ・我が国において戦後構築されてきた終身雇用制や年功序列制などの仕組みを理解させ、これらの制度が近年崩れてきた要因について考えさせる。 ・日本の社会保障制度は、保険料を主な財源とする社会保険を中心として、租税を財源とする公的扶助・社会福祉・公衆衛生がそれを補完していることを学ばせ、保険料方式と税方式の相違点などについて捉えさせる。 ・現代の企業には、利潤の追求とともに、環境への配 |

| 学習指導要領 | 都立多摩科学技術高校 学力スタンダード |
|--|---|
| <p>オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割</p> <p>グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。</p> | <p>慮、メセナやフィランソロピーなどの社会的責任が求められていることについて学ばせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の急速な進展が、人々の生活の利便性を向上させただけでなく、経済格差の広がり、移民問題などの負の側面をもつことについて理解させる。 ・国際法上の人権、国家主権に関する規定を理解させるとともに、我が国固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる問題と我が国の立場を理解させる。 ・国際社会において、主権国家の利害を調整し、国際協調の推進と国際問題の解決に向けて、国際連合などの国際的な組織の果たす役割が増大していることを具体的な事例を挙げて考えさせる。 ・近年の国際的な民族紛争について、紛争発生の背景となる人種・民族対立について捉えさせる。また、国際社会における文化や宗教の多様性について理解し、それぞれの文化を互いに尊重する態度を身に付けることが重要であることを理解させる。 ・核兵器の開発・配備が国際社会に及ぼす影響や国連を中心とする軍縮への取組について理解させる。また、核拡散防止条約、部分的核実験停止条約や包括的核実験禁止条約などが締結された意義やその背景について理解させる。 ・冷戦後の国際情勢などを踏まえ、我が国の安全保障に向けた多角的な努力や、自衛隊による国連の平和維持活動への参加など、集団的自衛権、国際貢献に向けた現実の取組について、事例を挙げて考察させる。 ・情報通信技術の発達や世界的な規制緩和の動きを理解するとともに、経済の国際化について、身近な商品の流通などの事例を踏まえて捉えさせる。 ・国際的な経済の相互依存関係の深まりについて理解させ、世界各地に広がる地域的な経済統合の動きについて、具体的事例を踏まえて、今後の展開を考えさせる。 ・戦後の国際経済の動向を理解するとともに、経済のグローバル化がもたらす地域間・国家間経済格差の問題や、南北問題などの諸課題の解決に向けて、国 |

| 学習指導要領 | | 都立多摩科学技術高校 学カスタンダード |
|-------------------------|---|---|
| <p>(3) 共に生きる社会を目指して</p> | <p>持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。</p> | <p>際機関や非政府組織に求められる役割について、考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の形成に参画する意義を認識させ、現代社会の諸課題を主体的に探究できる。 ・「個人と社会の関係」、「社会と社会の関係」、「現役世代と将来世代の関係」などを踏まえて、現代社会の諸課題について考察させ、自分の考えをまとめさせ、発表させる。 |

